

## 書式 2

教育研究業績書		
令和 3 年 3 月 31 日		
氏名 渡邊 泰夫		
研究分野	研究内容のキーワード	
介護福祉学 社会福祉学	フレクシオン、ロールモデル、職業的アイデンティティ	
教育上の能力に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
演習ワークシートを用いた、対話的な授業展開	平成 22 年 4 月 1 日～現在に至る	ワークシートやゲームで体験した感情を共有し、介護福祉実践現場や現代社会における課題に結び付け、自分には何が出来るのか議論する。
事例を用いた、対話的な授業展開	平成 30 年 4 月 1 日～現在に至る	授業の導入として事例を示し、対人援助職としての問題意識と知識の必要性に結び付け、学習の動機づけを行う。
授業ごとの小テストの実施	平成 30 年 4 月 1 日～現在に至る	授業の内容を直ちに小テストによって確認することで、学生の学ぶ姿勢を整えると同時に、知識の定着を図る。
2. 作成した教科書、教材		
保育士のための「社会福祉」学文社	令和 2 年 1 月 30 日	保育学生をはじめ、福祉職を目指す学生全般を対象とした社会福祉の入門書。「第 8 章社会福祉における相談援助」を担当している。
3. 教育上の能力に関する大学等の評価		
	令和元年度	「社会的養護Ⅰ」 学生の授業アンケートにおいて、満点 5.0 に対してすべての項目において平均値 4.0 以上の値を得た。
	令和 2 年度	「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」 学生の授業アンケートにおいて、満点 5.0 に対してすべての項目において平均値 4.0 以上の値を得た。 「介護の基本Ⅱ」 学生の授業アンケートにおいて、満点 5.0 に対して「予習や復習、練習など理解・技能を深める努力をした」「講義概要に書かれた到達目標を達成できた」の 2 項目は平均値 3 点代

		後半にとどまったものの、その他の 8 項目においては平均値 4.0 以上の値を得た。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項 箕面市立介護老人保健施設介護職員現任教育計画の立案と実施	平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日	1 年目から 10 年以上までの経験年数によって区分した現任教育を自主研修として実施した。
箕面市立介護老人保健施設職員キャリアパスモデルの立案	平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日	社協職員としての共通基盤をもとに職種ごとのキャリア形成を促進し、高度専門職業人として統合するモデルを立案した。
5. その他 介護福祉士実習指導者講習会 指導者養成講習 大阪府主任介護支援専門員研修 ファーストステップ研修 ファーストステップ研修講師養成研修 大阪府身体拘束廃止推進員養成研修 社会福祉士実習分野講習	平成 20 年 11 月 29 日 平成 19 年 10 月 7 日 平成 22 年 3 月 11 日 平成 22 年 4 月 30 日 平成 23 年 3 月 18 日 平成 24 年 1 月 24 日 平成 30 年 8 月 24 日	介護福祉士養成における実習を担当する者の研修 介護福祉士実習指導者講習会の講師を養成する研修 介護支援専門員のスーパーバイザーを養成する研修 介護福祉士の小規模チームのリーダーを養成する研修 介護福祉士ファーストステップ研修の講師養成研修 身体拘束廃止を推進する者を養成する研修 社会福祉士実習指導を担当する教員を養成する研修
職務上の実績に関する事項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 資格、免許 介護福祉士 介護支援専門員（大阪府） 福祉住環境コーディネーター1級 社会福祉士	平成 8 年 4 月 18 日 平成 14 年 6 月 30 日 平成 21 年 11 月 22 日 平成 25 年 4 月 19 日	第 A-28868 号 第 27021644 号 第 23-1-00032 号 第 161345 号
2. 特許等 なし		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 箕面市社会福祉協議会地域福祉活動計画ローリング委員会メンバー	平成 14 年 6 月 1 日～平成 15	箕面市における地域福祉を推進するための計画立案にコミットした。

箕面市立介護老人保健施設経営改善検討委員会ワーキングメンバー	年1月31日 平成19年9月1日～平成20年3月31日	箕面市社会福祉協議会が箕面市立介護老人保健施設の指定管理者の指定を受けるために指定期間の事業計画作成にコミットした。
箕面市社会福祉協議会発展強化計画ワーキングメンバー	平成22年7月1日～平成23年2月28日	箕面市社会福祉協議会の社会的存在意義を獲得すべく、発展強化計画の立案にコミットした。
箕面市社会福祉協議会給与制度検討ワーキングメンバー	平成27年10月1日～平成28年6月30日	持続可能な経営環境を整えつつ、職員の人材育成に資する給与改定を行うために、活動にコミットした。
4. その他 特になし		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 保育士のための「社会福祉」	共著	令和2年1月	学文社	保育学生をはじめ、福祉職を目指す学生全般を対象とした社会福祉の入門書。「第8章社会福祉における相談援助」を担当している。

<p>(学術論文)</p> <p>1 主体的に学ぶ介護福祉士の職業的アイデンティティ形成過程に関する研究 (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 30 年 3 月</p>	<p>四天王寺大学大学院 研究論集 (12), 151-163.</p>	<p>質的データを M-GTA を用いて分析し、複数の資格を所持する介護福祉士は、各資格に基づく多角的な分析を行いつつも、社会福祉実践者という統合された職業的アイデンティティを構築していたことを明らかにした。そして、社会福祉実践者という統合された職業的アイデンティティの構築には、実践のふりかえりとロールモデルに基づく実践が重要であることを示唆した。 (共同研究のため抽出不可) 著者：<u>渡邊泰夫</u>・笠原幸子</p>
<p>2 主体的に学ぶ介護福祉士のキャリア形成過程に関する研究 (査読付)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 3 月</p>	<p>四天王寺大学大学院 研究論集 (13), 51-62.</p>	<p>質的データを M-GTA を用いて分析し、主体的に学ぶ介護福祉士のキャリア形成過程は、順応期・萌芽期・変容期・展望期から構成されており、各時期に応じたふりかえりが次の段階へ移行する契機になっていることを示唆した。 (共同研究のため抽出不可) 著者：<u>渡邊泰夫</u>・笠原幸子</p>
<p>3 介護福祉士の主体的な学びに関連する要因 —A 県介護福祉士会の調査より— (査読付) (修士論文を加筆修正)</p>	<p>共著</p>	<p>令和 2 年 8 月</p>	<p>介護福祉学 27(1),11-19.</p>	<p>量的データを 2 項ロジスティック回帰分析し、自らの介護福祉実践をふりかえること、目指したい介護職の存在やそのスキルや具体的な行動を学んだり模倣したりすることを意識して実践することは、「主体的な学び」と関連があることが明らかになった。また、「男性」の介護福祉士の方が「主体的な学び」と関連があることも認められた。 (共同研究のため抽出不可) 著者：<u>渡邊泰夫</u>・笠原幸子・白澤政和</p>
<p>4 介護福祉士が行うリフレクションに関</p>	<p>共著</p>	<p>令和 3 年 2 月</p>	<p>介護福祉研究 28(1),6-12.</p>	<p>量的データに対して探索的因子分析と重回帰分析を行った。「職業人としての意欲と関心」</p>

<p>連する要因— 職業キャリア 成熟に着目し て (査読付)</p>				<p>が、介護福祉士が行う「日々の実践に対するリフレクション」 「実践から距離をおいたリフレクション」と関連する要因であること、「仕事に対するコントロール感」が、介護福祉士が行う「日々の実践に対するリフレクション」と関連する要因であることが明らかになった。また、「所属事業所における主な役割（＝直接介護者以外）」の介護福祉士が、「実践から距離をおいたリフレクション」と関連していることも確認された。 (共同研究のため抽出不可) 著者：<u>渡邊泰夫</u>・笠原幸子</p>
<p>(その他) 報告書 1 介護福祉士の専門職性に関する研究～主体的に学ぶキャリア形成過程に着目して～  学会発表 1 主体的に学び続ける介護福祉士のキャリア形成に関する探索的研究</p>	<p>共著      共著 口頭発表</p>	<p>平成 30 年 9 月      平成 26 年 10 月</p>	<p>大同生命厚生事業団：地域保健福祉研究助成研究報告書      第 12 回日本介護学会 in 山口</p>	<p>職業キャリア成熟度を中央値で 2 分割し、高群と低群で平均値の差を比較した。その結果、男性であること、同僚と個人的にふりかえることや職場外の仲間とふりかえること、職場内の研修会等でふりかえることが、職業キャリア成熟に正の影響を与えていたことが明らかになった。 (共同研究のため抽出不可) 著者：<u>渡邊泰夫</u>・浅井ゆかり      質的データを M-GTA を用いて分析し、主体的に学び続ける介護福祉士は、教科書等に示された既に普遍化された知見をもとに微視的視座をもって実践し、定見に基づく特殊化を経て巨視的視座を持つようになり、自らの実践をもとに新たな普遍化を試みる。この運動は専門的価値の深化を伴い螺旋状に繰り返すという、現象特性としての螺旋モデルを示した。 (<u>渡邊泰夫</u>・浅井ゆかり)</p>

<p>2 主体的に学び続ける介護福祉士のキャリア形成過程に関する仮説的研究①—隣接領域の資格取得に着目して</p>	<p>共著 口頭発表</p>	<p>平成 27 年 10 月</p>	<p>第 13 回日本介護学会 in 千葉</p>	<p>質的データを M-GTA を用いて分析し、主体的に学び続ける介護福祉士は、各資格に基づく多角的な分析を行いつつも、社会福祉実践者という統合された職業的アイデンティティを構築していたことを明らかにした。 ( <u>渡邊泰夫</u>・寺本純太郎・浅井ゆかり )</p>
<p>3 主体的に学ぶ介護福祉士のキャリア形成過程に関する研究</p>	<p>共著 ポスター発表</p>	<p>平成 29 年 10 月</p>	<p>第 25 回日本介護福祉学会</p>	<p>質的データを M-GTA を用いて分析し、主体的に学ぶ介護福祉士のキャリア形成過程は、順応期・萌芽期・変容期・展望期から構成されており、各時期に応じた省察が次の段階へ移行する契機になっていることを示唆した。 ( <u>渡邊泰夫</u>・笠原幸子 )</p>
<p>4 学びに対する意欲に影響する要因に関する研究 — 介護福祉士に焦点を当てて —</p>	<p>共著 ポスター発表</p>	<p>平成 30 年 10 月</p>	<p>第 26 回日本介護福祉学会</p>	<p>量的データを 2 項ロジスティック回帰分析し、実践のふりかえりをしていること、ロールモデルに基づく実践をしていること、性別（男性）が介護福祉士としての学習意欲を高水準に保つことに有意であること実証し、これらの要因が介護福祉専門職になるために重要であることを示した。 ( <u>渡邊泰夫</u>・笠原幸子・白澤政和 )</p>
<p>⋮</p>				